

3 進行役（ファシリテーター）の役割

参加体験型学習では、全体の流れを進めていく「進行役」（「ファシリテーター」ともいう）の役目が大切です。進行役は「講師」とは違い、自分の知識や考えを参加者に伝えることが役目ではありません。

参加者同士の話し合いや作業がスムーズに行われるよう、参加者の様子を見ながら説明や声かけをし、参加者自身が「気づき」を得て何かを学ぶことを助けることが役目です。

このため、専門的な知識や特別な経験がない人も、参加体験型学習の進行役になることができます。

☆進行役に求められる3つのこと

（1）雰囲気作り

- ① 進行役は、自信を持ってはっきりした声で、ゆっくりと話す。笑顔が1番。
- ② 話し合いの前に、「正解や間違いはない」ことを参加者に伝えると、参加者は発言しやすく感じる。
- ③ 発言を強要しない。話すことが苦手な参加者もいるので、話せる範囲で話してもらえればよいことを伝える。

（2）主体性の尊重

- ① 参加体験型の主役は、参加者自身であるので、進行役の説明や話が長すぎて、参加者自身が話す・活動する時間が短くなったり制限されたりすることがないように気を付ける。
- ② 進行役自身の考えを押し付けたり、参加者の発言を批判したりしない。
- ③ 参加者の意見を無理に一つにまとめる必要はない。一人一人が気付いたことを大切にするように促す。

（3）流れの調整

①参加者に合わせた進行

- ・参加者が活動や作業の手順などを理解しているかどうか、確かめながら進める。
- ・参加者の様子を見て、じっくりと時間が必要な場合には、用意した内容の全てを行うことにこだわらないほうがよい。
（計画の段階で、時間よりも早く進んでいる場合どうするか、時間が足りなくなりそうな場合どうするか等を考えておくと、その状況になったときに慌てなくてすむ。）

②テーマに沿った進行

- ・漠然と雑談をするよりも、各プログラムの「テーマ」をはっきり示すことで、より話し合いが深まる。
- ・話題がそれた場合は、発言者の意見にも同調しながら、テーマに戻すように心がける。